

令和6年度

由岐中学校伊座利分校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 将来への見通しをもち、主体的に学習に取り組む生徒の育成
- PBSを基本とする個別最適な学習支援
- ICT機器を効果的に活用した授業実践

学力向上検討委員会構成

- | | |
|---------------|---------------------|
| 学力向上推進員 | 委員 |
| 研修主任：
米田 舞 | 教頭：富田有香
助教員：大西海人 |

校長 岩佐 宣之

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

全教職員による授業参観・研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に真剣に取り組む、与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●基礎的な知識・技能の習得が不十分である。	①授業中の学習内容の理解を深める。 ②毎日の課題を自分の力でやり遂げる。 ③朝の自習時間に課題の確認をし、基礎的な知識・技能を定着することができる。	①授業展開を工夫する。ICT機器の活用・モジュール学習など、生徒が集中・理解しやすい工夫をする。 ②自分の力でできる課題を提示する。マス目ノートを使用させ、文字が書きやすいように配慮する。 ③朝の自習時間に個別指導をする。	②自分で使いやすいノートを選び使用させるよう変更。 ①③は継続して取り組む。 ④身近な話題と関連させた練習問題を解かせることで、知識の定着を図る。	① ICT機器は各授業でよく活用できていた。 ②ノートの使い方や書き方の工夫を伝えることができた。 ③スマイルネクスト(ドリル)やプリント、問題集を活用し、個人に合った方法で学習できるようにした。	・学級内でも理解度に差が出る教科では、授業内容や展開を、より一層工夫する必要がある。 ・分からない問題の答え自体をすぐに検索している生徒には、検索の仕方を指導する必要がある。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○短文でパターン化された課題に対して、意欲的に取り組むことができる。 ●長文や思考を要する課題では、課題の意味が十分に理解できない。	①長文を最後まで読み解く力をつける。 ②自分で考えたこと感じたことなどを、適切な漢字を使い200字程度の文章にまとめることができる。	①授業中に音読・なぞり読みを積極的に行い、課題解決に必要な情報にアンダーラインを引かせる。(国語力向上タスクフォース参照) ②行事終了後に、200字程度の作文を15分間で書かせる。	①②は継続して取り組む。 ③朝の自習時間にドリルを活用し、文章の書き方の練習をさせる。	①継続して取り組むことができた。 ②全行事で実施することはできなかった。 ③毎週月曜日に時間を設定し実施できた。	・読書を通して語彙を増やすとともに、思考力や作文力の育成。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教師の問いかけに対して、自分で一生懸命考え意見を述べるができる。 ●自分で考えて学習を進めることが苦手である。	①テスト前に自分で学習計画を立てることができる。 ②与えられた課題以外に主体的に学習に取り組むことができる。	①テスト前に学習計画を立てさせる。 ②PBSを基本とした学習支援をし、自分の得意分野に自主的に取り組むことができるようにする。 ③タブレットを活用するなど学習方法を多様化させる。	①②③を継続して取り組む。	①②学習記録表を作成し、継続して実施できた。 ③スマイルネクストで多くの問題に触れさせたり、自分の思いや感想をTeamsなどで即時共有させたりすることができた。	・与えられた課題以外に主体的に学習に取り組もうとする意識の向上。

令和6年度 学力向上ロードマップ

